

委託事業実施内容報告書

平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 株式会社アーク教育システム

1. 事業名称 港区在住外国人の生活支援に対応したCan-do方式による日本語教育事業

2. 事業の目的

- ①港区を中心に都心に住む外国人のニーズに適応した、生活行動に資する日本語教育に取り組む事業
- ②文法説明など、理念的形式的な指導による授業ではなく、生活行動にすぐ結びつく会話能力を

3. 事業内容の概要

- 地域の特徴を盛り込んだ外国人生活者のための日本語教育
地域独自の情報や特性を盛り込んだ生活行動を円滑にする初級日本語会話能力を育成する授業を、文化庁のカリキュラム案などを参考にデザインし、従来の構文型指導の限界を克服する。
- 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施
Can-do方式を基盤にして、具体的に授業を展開してゆける日本語教師の研修を実施する
- 日本語教育のための学習教材の教材
地域特性やCan-do型授業の手法をスムーズに展開できる教材作成をする。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年 4月9日 (水) 16:00～ 19:00	3時間	虎ノ門フォーラム C会議室	北村弘明 板橋貴子 小門謙 平野智子 油川美和 渡邊伸子 森智香子 梶浦玄器	①人事について ②本事業内容確認 ③日程の確認と各カリキュラムの確認 ④学習者の募集方法の検討	①それぞれの運営委員会の紹介とそれぞれの委員の役割の確認作業 ②本事業の意図や方向性を実施責任者から説明 ③日本語教室、日本語教員養成の両講座の日程とその内容についての確認 ④日本語教室、日本語教員養成の両講座の学習者の募集方法についての確認。(港区交流協会での協力を要請)
2	平成26年 4月16日 (水) 16:00～ 19:00	3時間	虎ノ門フォーラム C会議室	北村弘明 板橋貴子 小門謙 平野智子 油川美和 渡邊伸子 森智香子 梶浦玄器	①運営委員会の運営方法についての確認 ②事業の目的の確認 ③教員養成講座の内容について ④日本語教室のカリキュラム案について	①運営委員会の日程の確認と会議内容の決定 ②港区の独自性をどのように出していくかを検討 ③教員養成の内容と役割分担を決定 ④日本語教室のカリキュラム案を決定し、講師の担当科目を決定する。
3	平成26年 5月28日 (水) 16:00～ 19:00	3時間	虎ノ門フォーラム C会議室	北村弘明 板橋貴子 小門謙 平野智子 油川美和 渡邊伸子 森智香子 梶浦玄器	①日本語教員養成講座の最終確認 ②日本語教室について ③日本語教室担当者へのCan-do型の指導法伝授についての確認 ④港区の独自性を出す方法	①日本語教員養成講座の内容確認と募集状況の確認 ②日本語教室の日程の確定と募集方法の確認 ③日本語教室担当講師へのCan-do型の指導法をいかに伝授するか、方法、日程を調整することを決定する。 ④港区の独自性を持たせるために港区交流協会の方から意見を頂き、現状港区在住外国人生活者にみられる問題点を話し合う。
4	平成26年 6月11日 (水) 16:00～ 19:00	3時間	虎ノ門フォーラム C会議室	北村弘明 板橋貴子 小門謙 平野智子 油川美和 渡邊伸子 森智香子 梶浦玄器	①日本語教員養成講座について ②日本語教室について ③教材作成法について	①教員養成講座の成果をいかに図るか、各講座受講後に取りアンケートの作成と、その管理方法について決定する ②日本語教室のカリキュラム案を仮決定する。担当の割り当ても行う。 ③教材作成までのフローを確認する。
5	平成26年 9月24日 (水) 16:00～ 19:00	3時間	虎ノ門フォーラム C会議室	北村弘明 板橋貴子 小門謙 平野智子 油川美和 渡邊伸子 森智香子 梶浦玄器	①日本語教員養成講座について ②日本語教室について ③教材作成法について	①これまで終了した教員養成講座のアンケート結果を元に改善点について検討する。その結果、Can-do型の授業の見学希望が多いので、日本語教室が始まった際の見学を強化するかを検討。学習者への配慮を考慮して見学は認めないが、別の場所で公開講座をできないかなどを検討することを決定する。 ②日本語教室の学習者募集状況の確認と、募集教科方法について検討する。 ③教材作成の具体的な方法について、過去のCan-do型授業で使用した教材を研究し、本事業での方向性を検討することを決定する。

6	平成26年 10月1日 (水) 16:00～ 19:00	3時間	虎ノ門フォーラム C会議室	北村弘明 板橋貴子 小門謙 平野智子 油川美和 渡邊伸子 森智香子 梶浦玄器	①日本語教員養成講座について ②日本語教室について ③教材作成法について	①前回会議からこれまでの教員養成講座のアンケート結果から今後の講座内容を微調整することを決定する。 ②日本語教室の教案内容を確認し、修正ポイントを検討し、各講師に微調整をお願いすることを決定する。 ③日本語教室で使用する教材内容を確認し、教材作成のポイントについて講師に伝えることを確認決定する。
7	平成26年 10月29日 (水) 16:00～ 19:00	3時間	虎ノ門フォーラム C会議室	北村弘明 板橋貴子 小門謙 平野智子 油川美和 渡邊伸子 森智香子 梶浦玄器	①日本語教員養成講座について ②日本語教室について ③教材作成について	①日本語教員養成講座終了に伴い、全体的な総評を話し合う。 ②日本語教室実施状況から講座実施方法について修正点を話し合う ③教材作成状況を運営委員会に報告、今後の流れを確認する。
8	平成26年 12月17日 (水) 16:00～ 19:00	3時間	虎ノ門フォーラム C会議室	北村弘明 板橋貴子 小門謙 平野智子 油川美和 渡邊伸子 森智香子 梶浦玄器	①日本語教員養成講座について ②日本語教室について ③教材作成について	①日本語教員養成講座の全アンケート結果を元に総括を行った。 ②日本語教室について、受講生アンケートと指導者のアンケートを元に総括を行った。 ③今後の教材作成の日程を確認する。 ④全体的な本事業の総括を行う。教材作成の総括は、教材作成会議で行うことを決定する。

5. 日本語教育の実施

- (1) 講座名称 生活に必要な日本語会話能力を育成する初級教室
- (2) 目的・目標 生活に必要な場面を、文化庁のカリキュラム案から抜き出し、各カテゴリーで日本語運用能力を中心に学び、CEFR評価基準A1レベルをクリアする。
- (3) 対象者
- (4) 開催時間数(回数) 30時間 (全 15回)
- (5) 使用した教材・リソース
- (6) 受講者の総数 15人
出身・国籍別内訳

中国	0人	インドネシア	0人	
韓国	0人	タイ	0人	アメリカ2人 インド 1人 豪州 2人
ブラジル	0人	ペルー	1人	カザフスタン1人 スペイン5人 ドイツ1人
ベトナム	0人	フィリピン	0人	パキスタン1人 フランス1人
ネパール	0人	日本	0人	

(7) 日本語教室の具体的な内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成26年 9月19日 (金) 13:30～ 15:30	2時間	虎ノ門フォーラムB会議室	10	アメリカ 1人 インド 1人 豪州 2人 スペイン 5人 フランス 1人	自己紹介 挨拶いろいろ	初対面の挨拶が出来るようになる。 仕事、出身の国を尋ねたり、答えたり出来るように指導。	柴田 祥子	山田 麻由子
2	平成26年 9月26日 (金) 13:30～ 15:30	2時間	虎ノ門フォーラムB会議室	11	アメリカ 2人 インド 1人 豪州 2人 スペイン 5人 フランス 1人	病院 (受付・診察室)	体の部位と痛い、かゆい、熱がある、咳が出る、気持ちが悪い等 症状を文型「～んですが」で、訴えることが出来る。	油川 美和	山田 麻由子
3	平成26年 10月3日 (金) 13:30～ 15:30	2時間	虎ノ門フォーラムB会議室	12	アメリカ 1人 インド 1人 豪州 2人 カザフスタン1人 スペイン4人 ドイツ 1人 パキスタン 1人 フランス 1人	交番や事件への対応	財布を落としたり、ひったくりにあたり、泥棒に入られた時 交番に届ける場合と110番にに電話する場合と両方の対処法を教え、できるようにする。	油川 美和	柴田 祥子

4	平成26年 10月10日 (金) 13:30～ 15:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	12	アメリカ 1人 インド 1人 豪州 2人 ガザフスタン 1人 スペイン 2人 ドイツ 1人 パキスタン 1人 フランス 1人 ベトナム 1人	災害への対応	緊急の放送を聞き取れる ようにする。火事のとき119 番に電話をして、消防車、 救急車を正確に住所を知ら せ呼ぶことが出来るよう にする。又災害の時避難 所を尋ねることができるよ う指導	山田 麻由子	柴田 祥子
5	平成26年 10月17日 (金) 13:30～ 15:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	10	インド 1人 豪州 2人 ガザフスタン 1人 スペイン 4人 パキスタン 1人 フランス 1人	購買活動	自分の欲しい物を買えるよ うに、店員を呼び止め 、物の在りかを尋ね、試着 が出来るかも尋ねられる。 サイズ、色等も教えた。	柴田 祥子	山田 麻由子
6	平成26年 10月24日 (金) 13:30～ 15:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	10	インド 1人 豪州 2人 ガザフスタン 1人 スペイン 4人 ドイツ 1人 パキスタン 1人 フランス 1人 ベトナム 1人	飲食店	レストランで数を含め注文 できるようにする。一つ二 つ他助数詞を少し教えた。 料理名、飲み物も教えた。	山田 麻由子	柴田 祥子
7	平成26年 10月31日 (金) 13:30～ 15:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	10	アメリカ 1人 インド 1人 豪州 2人 ガザフスタン 1人 スペイン 4人 ドイツ 1人 フランス 1人 ベトナム 1人	交通機関を 使って移動	駅員を呼び止め、自分の 行きたいところを示し、その 情報を得ることができる。 駅名、電車の線名、番線、 を教えた。	柴田 祥子	山田 麻由子
8	平成26年 11月5日 (水) 13:30～ 15:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	12	アメリカ 1人 インド 1人 豪州 2人 ガザフスタン 1人 スペイン 4人 ドイツ 1人 フランス 1人	徒歩で移動 道を聞く	「～はどこですか」で道をた ずねる。右、左、前、後ろ、 となり、 まっすぐ、信号、右側、左 側、曲がります、渡ります、 等地図を使って教える。	山田 麻由子	柴田 祥子
9	平成26年 11月7日 (金) 13:30～ 15:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	11	アメリカ 1人 インド 1人 豪州 2人 ガザフスタン 1人 スペイン 5人 ドイツ 1人 ベトナム 1人	アドバイス	「～なら～がいいですよ」と 「～したほうがいいですよ」 の二つの文型でアドバイス を教えた。 風邪をひいている様子の 人に「、病院へ行った方が 良いですよ。」と教え 「パソコンを買いたいんで すが」「パソコンなら、アル ファカメラがいいですよ。』 の2パターンを教えた。	柴田 祥子	山田 麻由子
10	平成26年 11月12日 (水) 13:30～ 15:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	11	アメリカ 2人 インド 1人 豪州 2人 ガザフスタン 1人 スペイン 3人 パキスタン 1人 フランス 1人 ベトナム 1人	荷物を送る 受け取る	郵便局で荷物を自分の国 へ送れるように、航空便、E MS、を教える。比較と最上 級を教え費用、時間を考え て、決めることができる。 安い、たかい、速い、遅い 等の形容詞も教える。	山田 麻由子	柴田 祥子
11	平成26年 11月14日 (金) 13:30～ 15:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	12	アメリカ 1人 インド 1人 豪州 1人 スペイン 4人 ドイツ 1人 パキスタン 1人 フランス 1人 ベトナム 1人	依頼する	ください、貰えますか、もら えませんか、いただけます か、いただけませんか、を 使って、レストランで水を貰 うところから、 とおりがかりの人に丁寧に 写真を撮ってもらえるよう に頼むことが出来る。	柴田 祥子	山田 麻由子
12	平成26年 11月19日 (水) 13:30～ 15:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	12	アメリカ 2人 インド 1人 豪州 1人 ガザフスタン 1人 スペイン 3人 パキスタン 1人 フランス 1人	美容院	生徒からのリクエストで美 容院の課を作った。予約の 仕方、どのくらいカットする かを教えた。、 文型としては「～月～日は 空いていますか。」で予約 が出来るようにした。	山田 麻由子	柴田 祥子
13	平成26年 11月21日 (金) 13:30～ 15:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	12	アメリカ 1人 インド 1人 豪州 2人 ガザフスタン 1人 スペイン 2人 パキスタン 1人 フランス 1人 ベトナム 1人	誘う	誘いかけは「～しません か」と「～しましょう」で教え 、断りは、理由を言ってから すみませんちよつとで教え る。 今日、明日、今週、来週 を教え、各種イベントも教え た。	柴田 祥子	山田 麻由子

14	平成26年 11月26日 (水) 13:30～ 15:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	11	アメリカ 1人 インド 1人 豪州 1人 カザフスタン 1人 スペイン 5人 ドイツ 1人 フランス 1人 ベトナム 1人	待ち合わせ	誘いかけを前回勉強した ので、そこから場所と時間 を打ち合わせ、『会いましょ う』で終わる形を教える。次 に待ち合わせ場所の詳細 を尋ねられるようにした。	山田 麻由子	柴田 祥子
15	平成26年 11月28日 (金) 13:30～ 15:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	11	アメリカ 1人 インド 1人 豪州 1人 カザフスタン 1人 スペイン 4人 ドイツ 1人 パキスタン 1人 フランス 1人	グループワー ク	茶道の説明と生徒さんが お茶をたて、習字をやり、 筆で年賀状を書き、和菓子 を食べながら今までの授業 の復習を会話形式で行っ た。	柴田 祥子	山田 麻由子

(8) 受講者の募集方法

港区国際交流協会でのポスター掲示による告知

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

授業実施日時		2014年 9 月 19 日() 13:30 ~ 15:30					
担当教師名		柴田祥子			補助者名		山田麻由子
出席者		10名					
在籍者名(国籍) 出席○ 欠席×	アメリカ	1	インド	1	豪州	2	
	スペイン	5	フランス	1			
本時の目標		1.自己紹介ができる 2.自分の名前を書くことができる					
授業内容 (時系列に沿って記入)	学習させる文型 および 提示方法	1.「～です」(発信) 2.「おくには どちらですか」(受信) 3.「いつ にほんに きましたか」(受信) 絵や地図などを使いながら、使いかたを会話例(スキット)の中で教師が提示する。					
	指導項目と活動内容	教師の活動			学習者の活動		
		① 1.学習するスキットの場面を絵で示す。<1> 2.学習者から絵に関連する会話や語彙を引き出す。 3.スキットを演じて会話例を聞かせる。 A:はじめまして わたしは○○です。<2> どうぞよろしくお願いします。 4.文字パネルを貼る。文字と音を確認する。<3> 5.文字パネルを持ちながら、学習者に自分の名前を入れて自己紹介をさせる。 6.口慣らし練習を行う。 7.ボールを持った学習者が自己紹介を行う。<4> ボールは順番に回し、2回めからはアトラダムに他の学習者に回す。紙などを見るのではなく、相手の顔を見るように指導する。 8.絵を見せて、対話のスキットを聞かせる。<5> A:はじめまして わたしは○○です。 どうぞよろしくお願いします。 B:はじめまして △△です。 こちらこそ よろしくおします。 9.口慣らし練習を行ったあと、教室にいる人と自己紹介を行うタスクを行う。 10.練習で上手に出来ていた学習者に前に出て来てもらって自己紹介を行う。 11.ネームプレートに自分の名前をカタカナで書く。書けない学習者には指導する。<6> ② 1.世界地図、おもちゃの飛行機、カレンダーを使って学習者から発話を引き出す。<7><8><9> 2.学習者の出身国、来日の時期を聞き、それが表現できるようアドバイスをしていく。 3.文字パネルを貼り、口頭練習を行う。<10> 4.絵を見せ、学習者から会話内容を引き出す。<11> 5.スキットを演じて見せる。<12> A:○○さん、おくには どちらですか? B:インドです。 A:いつ にほんに きましたか? B:△△です。 A:そうですか 6.全体で口頭練習を行った後、個人練習、グループ練習、ペア発表を行う。 7.振り返りシートに出る会話例を振り返る。 8.振り返りシートを行う			① 1.絵を理解する。 2.絵に関連する会話や語彙を発表する。 3.スキットを見て、内容を理解する。 4.文字カードの文字と音を理解する。 5.文字カードを持ち、自分の名前を入れて発表する。 6.教師の誘導に従い口慣らし練習を行う。 7.ボールが回ってきたら自己紹介を行う。 8.スキットの内容を理解する。 9.口慣らし練習後、他の人と自己紹介を行う。 10.自分の名前を書く。 ② 1.教師の誘導に従って、自由に発話する。 2.自分の来日時期を理解する。 3.口頭練習を行う。 4.絵を見て自由に発話する。 5.スキットの場面と意味を理解する 6.口頭練習を行ったあと、ペアになって発表する。 7.本時の授業を振り返る。 8.振り返りシートを行う。		
使用した教材		絵)自己紹介(対複数)、自己紹介(対個人) レアリア)名札、ネームプレート、スキット役割を表すABプレート、地図、おもちゃの飛行機、ボール カレンダー					

	文字カード) はじめまして、わたしは〇〇です。どうぞ、よろしく! おねがいします。にちらこそ、よろしくおねがいします。～ともうします。〇〇さん。おくにどちらですか。～です。?。いつ にほんに きましたか	
振り返りシートの 実施方法	用意したシートを利用し、教師の口頭での質問に対し、答えさせる形式で行った。シートはその場で教師が採点し、学習者に返却した。	
教師の感想	第1回目ということなので、最初は学習者同士が交流できるようなゲーム的なものを取り入れて練習を行った。最初はみな緊張していたが、徐々に打ち解けていくのがわかった。しかしまだまだ発話が少ないので、日本語ができなくても、自由に発話できるような雰囲気作りをしていきたいと思う。	
その他の 問題点 (備考)	・教室が広く、机の配置をゆったりとしてしまったため、学習者との距離が出来てしまった印象をうけた。 次回は学習者との距離が縮まるような配置にしたいと思う。 ・振り返りシートを保存するファイルを次回用意すること。	
写真		
	練習では、参加者の前に出て自己紹介を行った。	ネームカードに自分の名前を書く参加者たち。自分の名前をカタカナ表記することが楽しい様子であった。

授業実施日時		2014年 10 月 17 日(金) 13:30 ～ 15:30							
担当教師名		山田麻由子			補助者名		柴田祥子		
出席者／在籍者		10 人							
在籍者名(国籍)		インド	1	豪州		2	カザフスタン	1	
		スペイン	4	パキスタン		1	フランス	1	
本時の目標		1. 売り場や品物の場所を尋ねることができる。 2. 試着をすることができる。 3. 自分の好むものをお願いする。							
授業内容	学習させる文型および提示方法	1. 「～はどこですか」〈発信〉 2. 「～はどこにありますか」〈発信〉 3. 「～てみてもいいですか」〈発信〉 4. 「～の～はありますか」〈発信〉							
	指導項目と活動内容	教師の活動				学習者の活動			
		① - 1 (スキットの役はA: 客・教師B: 店員・補助者で統一) 1. 教師が客役、補助者が店員役でスキットを演じる。(店内案内図を使って) A: ～うりばはどこですか? B: ～階です。 2. 文字カードを貼りながらテキストを配布。 3. コーラスしてもらう。 4. ふたりずつに分かれて、会話の練習。 5. もう一度教師と一緒にコーラス。 6. それぞれ教師とスキットの練習(A: 学習者 B: 教師)しながら発音指導。 7. 客と店員の役にわかれ、実際に全員の前でスキットを演じてもらう。できる学習者には他の単語を入れるなど、応用して、スキットを演じてもらう。 8. 案内図を示しながら、他の売り場も確認。 ① - 2				① - 1 1. テキストなしでスキットをきく。 2. 教師の後にリピートする。 3. それぞれわかれて練習する。 4. 各パート両方練習する。 5. 教師と一緒に両方のスキットをリピート。 6. 教師が B をやり、スキットを練習しながら発音練習。 7. 役にわかれて、クラスの前でスキットを演じる。(学習者によっては、自分で応用編を演じた) 8. 他の売り場をそれぞれが復唱しながら練習。			

(時系列に沿って記入)	① 1. お酒のビンを使って、「～はどこにありますか」の練習。 以下プロセスは組み合わせや単語を変えて①-1と同じ。 ② 1. レアリア（洋服）をつかって「もう少し～の～はありますか」のスキットを演じる。 2. ①と同様、コーラスと学習者にスキットを演じてもらう。 ②-1 1. 「～てみてもいいですか？」を使い、客と店員のスキットをみせる。 以下は①の同じように練習。 ②-2 1. 「～（の）はありますか？」を使って違うサイズや違う色をお願いするスキットを演じる。 2. その他の表現として「違う色・サイズはありますか」を導入。 3. WBに折り紙を貼って、色を提示。 ★はおまけとして、買い物に使うまかの言い方や単語などを提示最後に振り返りシートを行う。	②-1 チーズの空き箱を使って練習する。 以下は①同様、リピートとスキットの演技で練習。 最後に公告でチェックした単語を使い、それぞれが練習。 ②-2 1. それぞれが各自で練習。 2. ふたりに別れて練習。 3. 折り紙の色をみながら確認。（それぞれ自分がきいている洋服の色で練習した。）
使用した教材	絵カード（売り場案内図・試着室・店員に商品の場所を尋ねる場面・「おおきいの、ちいさいの」を表す絵） 文字カード（それぞれの文型） お酒のビン・ジャケット・折り紙	
振り返りシートの 実施方法	教師と補助者がひとりずつまわってチェック	
教師の感想	全体的に学習者の発話も多く、教師が提示した言葉またはそれ以外の言葉も活発に発言してくれたので、雰囲気は良かったと思う。実際にスキットを演じてもらうことで、学習者が自発的に応用しやすかったのではないか。テキストの量が多すぎたので、★以下は別ページにして、お土産にした方が良かったと思った。個別の発音指導をもう少し工夫し、丁寧かつ飽きないような発音指導を心掛けたい。最小限のスキットにするために、会話が不自然なものになってしまったので、次回もう少し自然な会話構成にしようと思う。	
その他の 問題点 （備考）	同じテーマでも、どの表現を選ぶかが非常に難しかった。自然な日本語を心掛け、実際に売り場で会話を聞きながら表現を選んだが、日常私たちが使う表現は日本語としては間違っていることがあるので、気を付けて表現を選ばなくてはいけないと思った。スキットの長さによつて、自然な会話ではなくなってしまうことがあるので、その点にも注意したい。	
		導入を行う講師

写真



練習でロールプレイをする生徒達

(10) 目標の達成状況・成果 検証方法も含めて具体的に記載すること。

国籍はもちろん属性や職業なども統一性はなく、個々人の状況によりニーズもさまざまであった。

【データ】

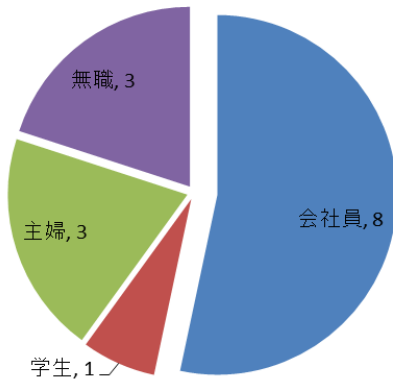
①国籍 20～30代が大半を占める。

②職業 会社員が多いが、内半数の4名が語学講師。これは昼間での開講時間の影響と思われる。それ以外の会社員は、自営業のお手伝いや会社では幹部と位置づけられるなど、ある程度時間調整できる方の受講者が多かった。

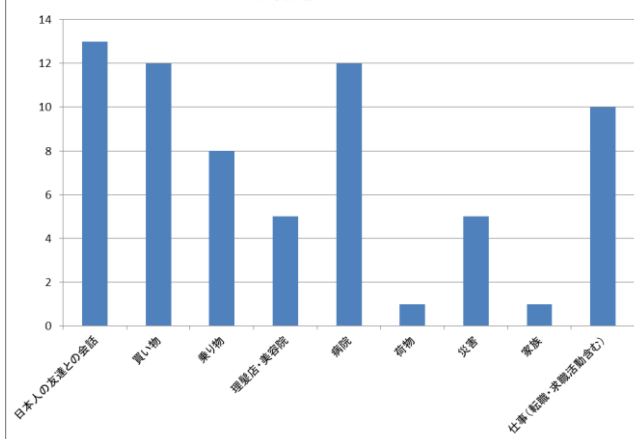
③ニーズ 日本人の友人とコミュニケーションがとりたい 病院対応 買い物等の希望が多かった。

また、今回のカリキュラムには直接的に関係ないが、仕事や就職活動に必要な日本語も学びたいという事であった。

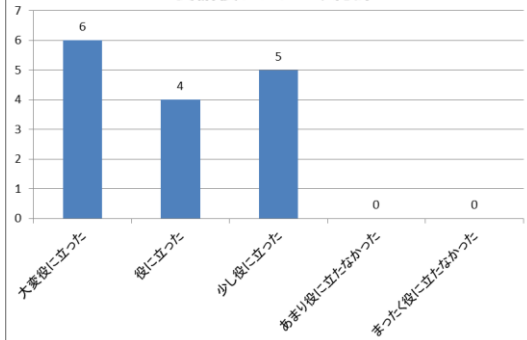
職業別



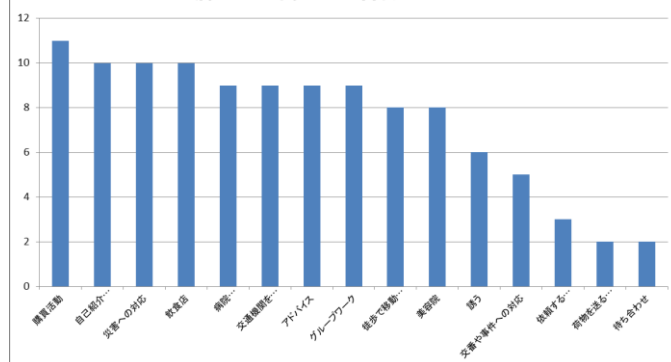
日本語を学ぶニーズ



受講後アンケート総評



満足度が高かった科目ランキング



【受講後のアンケートから見られる成果】

参加者全員が少しは役に立った以上のアンケート結果であった。内容的には、在日期間が短い方が多かった為、自己紹介をはじめほとんどの科目で高い満足感を得ることができた。特に、当初のニーズにはあまりなかった災害時の対応などは、「災害が起きた時にどのようにしたら良いかが分かって安心できた」というアンケートがあったように、思った以上に高い評価を得ることができた。

言葉の学習と共に、防災情報や災害時対応の仕方などを講座に取り込むことが重要であると考えられる。

(11) 改善点について

初級前半のレベルのクラスであったため、そもそも持っている文法力や語彙が少ないため、授業の進度が予定よりも遅れることが多かった。
Can-do型だと語彙制限を特に持たせず、状況にあった日本語を教えていくため、どこまで教えてよいのかが、教師側の配慮がないと混乱招くことが見受けられた。またカリキュラムの設定においてもいかに興味を引くカリキュラムを提案できるかがポイントとなるように思われる。

- (1) 講座名称 生活に必要な日本語会話能力を育成する初級教室
- (2) 目的・目標 生活に必要な場面を、文化庁のカリキュラム案から抜き出し、各カテゴリーで日本語運用能力を中心に学び、CEFR評価基準A2レベルをクリアする。
- (3) 対象者
- (4) 開催時間数(回数) 30時間 (全 15回)
- (5) 使用した教材・リソース
- (6) 受講者の総数 10人
出身・国籍別内訳

中国	0人	インドネシア	0人	
韓国	1人	タイ	0人	アメリカ1人 イギリス1人 オーストラリア1人
ブラジル	0人	ペルー	0人	スペイン2人 ベラルーシュ1人 ロシア2人
ベトナム	0人	フィリピン	0人	台湾1人
ネパール	0人	日本	0人	

(7) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成26年 9月19日 (金) 10:30～ 12:30	2時間	虎ノ門フォーラムB会議室	10	アメリカ1人 イギリス1人 豪州1人 スペイン2人 ベラルーシュ1人 ロシア2人 台湾1人	自己紹介 挨拶いろいろ	自己紹介と他己紹介を名詞を使ってできるように、簡単な会社の役職も教えた。『どちらにお住まいですか』場所の詳細がいえるようにした。	高田 伸子	水野 亜希子
2	平成26年 9月26日 (金) 10:30～ 12:30	2時間	虎ノ門フォーラムB会議室	10	アメリカ1人 イギリス1人 豪州1人 スペイン2人 ベラルーシュ1人 ロシア2人 台湾1人	病院 (受付・診察室)	医者の指示が分かるように『～のとき～てください。』熱、ふる、酒、～てから～てください』『～前に～ください』で薬が指示通り飲めるようにした。錠剤、粉薬他、食前。食間、食後も教えた。	渡邊 伸子	水野 亜希子
3	平成26年 10月3日 (金) 10:30～ 12:30	2時間	虎ノ門フォーラムB会議室	10	アメリカ1人 イギリス1人 豪州1人 スペイン2人 ベラルーシュ1人 ロシア2人 台湾1人	交番や事件への対応	『何をとられましたか』『引っこりにあいました。』『バイクに乗っていました。』他どこで説明できるように、場所をいろいろおしえた。『どこにいられてありましたか』に答えられるように、後ろのポケット、胸ポケット、かばんの中等を教えた	渡邊 伸子	高田 伸子
4	平成26年 10月10日 (金) 10:30～ 12:30	2時間	虎ノ門フォーラムB会議室	10	アメリカ1人 イギリス1人 豪州1人 スペイン2人 ベラルーシュ1人 ロシア2人 台湾1人	災害への対応	火事で119に電話したとき、消防からの指示が分かるように、『避難階段はどこですか。』『はやく逃げてください』『なにも持たないで逃げてください』を教えた。次に救急車を呼ぶために『人が倒れています。』『何が見えますか』を教えた。	水野 亜希子	高田 伸子
5	平成26年 10月17日 (金) 10:30～ 12:30	2時間	虎ノ門フォーラムB会議室	10	アメリカ1人 イギリス1人 豪州1人 スペイン2人 ベラルーシュ1人 ロシア2人 台湾1人	購買活動	自分の希望する洋服が買えるように『試着できますか』『～見てもいいですか』そしてサイズを指定できるようにした。つぎに支払いに関して『カードで払えますか』『クーポンが使えますか』割引、現金等を教えた。	高田 伸子	水野 亜希子

6	平成26年 10月24日 (金) 10:30～ 12:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	10	アメリカ1人 イギリス1人 豪州1人 スペイン2人 ベラルーシュ1人 ロシア2人 台湾1人	飲食店	レストランの入り口での対応に答えられるように、「何名様ですか。」禁煙席、喫煙席、窓側の席、個室を教えた。『予約できますか』○月○日○人を教えた。次に注文のときの質問を教えた。「おすすめは何ですか」「～はおかわりできますか」「どんな味ですか。』甘い、辛い、すっぱい等を教えた。	水野 亜希子	高田 伸子
7	平成26年 10月31日 (金) 10:30～ 12:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	10	アメリカ1人 イギリス1人 豪州1人 スペイン2人 ベラルーシュ1人 ロシア2人 台湾1人	交通機関を 使って移動	港区は、ちいバスが走っているの、バスの運転手に自分の行きたい場所を尋ねることができるように『このバスは～へ行きますか。』『このバスは～で止まりますか』田町駅、渋谷、虎ノ門、神谷町、六本木ヒ	高田 伸子	水野 亜希子
8	平成26年 11月5日 (水) 10:30～ 12:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	10	アメリカ1人 イギリス1人 豪州1人 スペイン2人 ベラルーシュ1人 ロシア2人 台湾1人	徒歩で移動 道を聞く	今いる場所で具体的に道を尋ねたり、教えたりできるように『～はどこですか』『近くに～がありますか。』虎ノ門病院、銀行学校、パンや、コンビニ、魚屋、レストラン等。次に丁寧に「～へ行きたいんですが」まっすぐ、みぎ、左、まがいます、渡ります。	水野 亜希子	高田 伸子
9	平成26年 11月7日 (金) 10:30～ 12:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	10	アメリカ1人 イギリス1人 豪州1人 スペイン2人 ベラルーシュ1人 ロシア2人 台湾1人	アドバイス	アドバイスを求める言い方を勉強した。『～んですが、どうしても良いですか。』やけど、洋服、取り替えたい、次に少し普通形を勉強した「いそいだほうがいいよ」野菜、高速バス、いそぐ	高田 伸子	水野 亜希子
10	平成26年 11月12日 (水) 10:30～ 12:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	10	アメリカ1人 イギリス1人 豪州1人 スペイン2人 ベラルーシュ1人 ロシア2人 台湾1人	荷物を送る 受け取る	モ急便を使えるようにする。「集荷お願いします。」「～を持ってきてください。」「何時に来ますか』『何時に～にこれますか』伝票、段ボール箱。次に荷物を受け取れなかった場合、『不在伝票が入ってたんですが』『今、いらっしゃいますか』『～をもってきてください』不在伝票、伝票番号、明日、あさって、○曜日、午前、午後、夕方に降	水野 亜希子	高田 伸子
11	平成26年 11月14日 (金) 10:30～ 12:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	10	アメリカ1人 イギリス1人 豪州1人 スペイン2人 ベラルーシュ1人 ロシア2人 台湾1人	依頼する	対外的に依頼する。「～てもらえませんか」包んで、届けて、持ってきて、送って、とって、会社、パンフレット、資料 次に普通形の依頼で『～手よ』『～手くれない【?】』『～手くれる【?】』教えて、見せて、食べてみて、ちょっと聞いて、付き合って	高田 伸子	水野 亜希子
12	平成26年 11月19日 (水) 10:30～ 12:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	10	アメリカ1人 イギリス1人 豪州1人 スペイン2人 ベラルーシュ1人 ロシア2人 台湾1人	美容院	カラーを依頼することができる。『色どうしますか』『どのお色になさいますか』『～でお願いします』リタッチ、カラー、赤、オレンジ、茶色、ブロード、明るい、暗い、ストレートパーマ。次に男性にも仕えるように。「すいてください」「全体的に短く」借り上げ、もみ上げ、俳優の名前、女優の名前、	水野 亜希子	高田 伸子

13	平成26年 11月21日 (金) 10:30～ 12:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	10	アメリカ1人 イギリス1人 豪州1人 スペイン2人 ベラルーシ1人 ロシア2人 台湾1人	誘う	条件つきの誘いかけ、『～ 【模試】～たら～に行きま せんか』仕事が終わった ら、明日晴れたら、浅草、 海、テーマパーク、飲み、カ ラオケ、パーティー、次に理 由を言って、断る、普通形 にしました。『～へ一緒に』 いかない(?)』『～がある ので』『ごめん、その日は無 理』『他の日なら』チケット、 相撲、パーティー、招待 券、クーポン、このお店、い いね、	高田 伸子	水野 亜希子
14	平成26年 11月26日 (水) 10:30～ 12:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	10	アメリカ1人 イギリス1人 豪州1人 スペイン2人 ベラルーシ1人 ロシア2人 台湾1人	待ち合わせ	待ち合わせにうまく合えな い時に言う言葉、『ちょっ と、送れそうです』『先に～ てください』『今、どこです か』『まだ～です』行って、 食べて、入って、品川、新 橋、田町次にキャンセルの 言い方。『～で行けなくなっ た』『気にしないでください』 急用、病気、頭が痛くて、け がをして、大丈夫、また今 度ね。	水野 亜希子	高田 伸子
15	平成26年 11月28日 (金) 10:30～ 12:30	2時間	虎ノ門フォーラ ムB会議室	10	アメリカ1人 イギリス1人 豪州1人 スペイン2人 ベラルーシ1人 ロシア2人 台湾1人	グループワ ーク	最後の回なので、今までの 復習と、日本文化の紹介を した。歌舞伎、浮世絵、型 紙、レアリアで紹介した。	高田 伸子	水野 亜希子

(8) 受講者の募集方法

1つ目の日本語教室と同様

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

日本語教室の運営 授業内容報告書

授業実施日時		2014年 9 月 19 日 () 13:						
担当教師名		高田伸子			補助者名		水野亜希子	
出席者		10名						
在籍者名(国籍)	アメリカ	1	イギリス		1	豪州	1	
	台湾	1	ロシア		2	スペイン	2	
	ベラルーシ	1	韓国		1			
本時の目標		1.日本の組織を知る 2.名刺交換をしながら他己紹介 3.自己紹介の時に会話の相手との話の広がりを作る						
授業内容 (時系列に沿って記入)	学習させる文型 および 提示方法	1.「わたしは ○○の△△です。」(発信) 2.「(こちら・あちら・そちら)は、○○です。」(発信) 3.「どちらに おすまい ですか」(受信) 4.「(場所)の近くです。」 5.「 <u>adj.</u> ところです。」(発信) 絵や地図などを使いながら、使いかたを会話例(スキット)の中で教師が提示する。						
	指導項目と活動内容	教師の活動			学習者の活動			
		① 1.絵パネルを提示して、自己紹介の会話を引き出す<1> 2.会社の組織図(簡単な物)を説明する <2> 3.自分の好きな役職をつけて、名刺作成をする<3> 4.スキットを演じて会話例を聞かせる。 A:はじめまして わたしは○○の△△です。 どうぞよろしくお願いします。 こちらは、(当社の)〈役職〉の△△です。 B:△△と申します。どうぞよろしくお願い致します。 5.文字パネルを貼る。文字と音を確認する。<4> 6.文字パネルを持ちながら、学習者に自分の自己紹介をさせる。 7.口慣らし練習を行う。 8.〈場面設定〉パーティー会場)5名で2チーム作りを実際に作った名刺を元に自己紹介と他己紹介の練習を行う。<5> 名刺の渡し方も教える。 ② 1.文字パネルを貼り、文字と音を確認する。<6> 2.教師が読み上げる。 A:どちらにお住まいですか。 B:~~のちかくに住んでいます。 A:□□ところですね。 3.文字パネルを貼り、ことばの説明と口頭練習を行う。<7> 4.ペアを作り、ペアでそれぞれ練習をする。それを3人ほど別のペアを作り練習を繰り返す。 5.振り返りシートに出る会話例を振り返る。 6.振り返りシートを行う			① 1.絵を理解する。 2.組織図を理解する。 3.名刺を作る 4.スキットの内容を理解する 5.文字カードを持ち、一斉に発話練習をする。 6.順番に自己紹介と他己紹介を行う 7.教師の後に続いてシャドーイングをしながら口慣らし練習を行う。 8.チームを作り、それぞれ練習をする。 ② 1.文字パネルを発話し練習する。 2.スキットの内容を理解する 3.口頭練習を行う。 4.ペアを組み、自由に発話練習をする。 5.本時の授業を振り返る。 6.振り返りシートを行う。			
使用した教材		絵)自己紹介(対複数)、日本の代表的な組織図 レアリア) 名刺 (文字カード) わたしは ○○の (なまえ) です。						

	<u>やくしよく</u> <u>しゃちよふ</u> <u>ぶちよふ</u> <u>かちよふ</u> <u>かかりちよふ</u> <u>しゅにん</u> <u>社長</u> <u>部長</u> <u>課長</u> <u>係長</u> <u>主任</u> <u>〈夫の名前〉の かないの</u> <u>こちら</u> <u>そちら</u> <u>あちら</u> <u> </u>は <u>〈なまえ〉</u>です。 <u>おねがいいたします</u> <u> </u>とうします。 <u>どちらに おすまいですか。</u> <u> </u>のちかくにすんでいます。 <u> </u>ところ ですね。 <u>とうきょうタワー</u> <u>たまちえき</u> <u>ろっまんぎ</u> <u>とらのもんえき</u> <u>とらのもんヒルズ</u> <u>すてきな</u> <u>べんりな</u> <u>良い</u>	
振り返りシートの 実施方法	用意したシートを利用し、教師の口頭での質問に対し、答えさせる形式で行った。 シートはその場で教師が採点し、学習者に返却した。	
教師の感想	第1回目ではあったがA2レベルであるため、現状の出来る範囲で自己紹介を行う。最初はみな緊張していたが、自己紹介を通じてお互いを知ることができ、授業後半では一体感が出てきた。クラスの雰囲気はとても良いので、このまま継続していきたい。 内容が少し難しい部分もあったが、会社の組織図などは皆興味深く聞いていた。如何に学習者の興味がある事柄を取り入れていくかが重要になってくると感じる。 補助者の使い方が良く分らなかった。	
その他の 問題点 (備考)	・レベル差がややあった。出来る人に合わせるとできない人は苦しいし、できない人に合わせると来る人は厳しい。今後どのように授業進行をしていくか、教師間での協力が必要。	
写真		
	練習では、参加者の前に出て自己紹介を行った。	ネームカードに自分の名前を書く参加者たち。自分の名前をカタカナ表記することが楽しい様子であった。
		←名刺を使つての他己紹介で、受講生間の新密度が高まる。

日本語教室の運営 授業内容報告書

授業実施日時		2014年 11 月 5日(水)			
担当教師名		水野亜希子		補助者名	高田伸子
出席者		10 名			
在籍者名 (国籍)	アメリカ	1	イギリス	1	豪州
	台湾	1	ロシア	2	スペイン
	ベラルーシ	1	台湾	1	
本時の目標		目的地への行き方を尋ねることができる。 相手の返事を聞き取り、目的地に到着できる。			
授業内容 (時系列に沿って記入)	学習させる文型 および 提示方法	1.N(placa) はどこですか。 2.ちかくに N(place)はありますか。 3.N(place)へ 行きたいんですが。 絵や地図などを使いながら、使いかたを会話例(スキット)の中で教師が提示する。			
	指導項目と 活動内容	教師の活動		学習者の活動	
		1. ①1の文型を使ったスキット。2回。 ②地図(虎ノ門病院)の絵を見せながらも一度。 …文字カードもWBに貼る。(※文型以外は空白) …「〇〇はどこですか。」リピートしてもらう。 …フラッシュカード(場所・店)でさらに練習。 ex[せんべいや・愛宕神社 etc] ③語彙の練習。空白に入りそうな語彙を発表してもらう。 …図を提示して、分かるものは発言してもらう。分からない語彙は図 or 人形で位置を示す。リピート。[右・隣…] …ここでプリントを配布 …アルファ周辺の手書きの地図を渡し、語彙の練習。 ex[やっきょくはどこですか。→アルファの後ろにあります。] ④ペアで練習してもらう。 ⑤発表してもらう。評価。 2. ①2の文型を使ったスキット。2回。 ②地図(セブンイレブン)の絵を見せながらも一度。 …文字カードもWBに貼る。(※文型以外は空白) …「近くに〇〇はありますか。」リピートしてもらう。 …フラッシュカード(場所・店)でさらに練習。 ③尋ねられた場合。 …1のスキットのBの台詞も一緒に文字カードをWBに貼る。 ex[まっすぐいってください。〇にまがってください。わたります。いきます。] …場所・店などを入れ替えてリピート練習。 ④ペアで練習してもらう。 …架空の地図を渡し、それを使いスキットを作ってもらおう。 ⑤発表してもらう。 3. ①3の文型を使ったスキット。2回。 ②地図(虎ノ門ヒルズ)の絵を見せながらも一度。 …文字カードもWBに貼る。(※文型以外は空白) …「〇〇へ行きたいんですが。」リピートしてもらう。 …フラッシュカード(場所・店)でさらに練習 ③虎ノ門の地図を渡し、全ての語彙・文型を使ってペアで練習。 目的地は教師が指定。 4.振り返りシート		1. ①スキットを見て、状況を推測する。 ②「〇〇(入れ替え)はどこですか。」リピート ③場所を示す語彙を理解する。 リピート。 4. ④ペアでスキットを作る。 ⑤発表。相互評価。 2. ①スキットを見て、状況を推測する。 ②「近くに〇〇(入れ替え)がありますか。」リピート。 ③[道を尋ねる]ときに使用する動詞の理解。1と2の語彙も併せて使用する。リピート。 ④1と2のスキットを使い、ペアでスキットを作る。 ⑤発表。相互評価。 3. ①スキットを見て、状況を推測する。 ②「〇〇へ行きたいんですが。」リピート。 ③実際のアルファ周辺の地図を使い、ペアでスキットを作る。 4. 振り返りシート	

使用した教材	[絵]・道を尋ねている絵 ・道〈まっすぐ行きます 曲がります 渡ります…の説明〉 [レリア]・虎ノ門周辺の地図 [文字カード] [フラッシュカード]	
振り返りシートの 実施方法	用意したシートを利用し、教師の口頭での質問に対し答えてもらう形式で行った。 シートはその場で教師が採点し、学習者に返却した。	
教師の感想	＊地図はシンプルなものを使ったほうがよい。	
写真		導入の写真
		質問に答える学習者

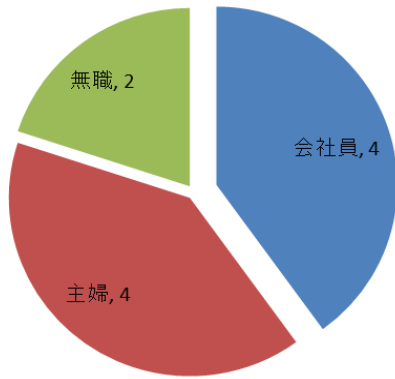
(10) 目標の達成状況・成果

A1レベル同様国籍はもちろん属性や職業なども統一性はなく、個々人の状況によりニーズもさまざまであった。

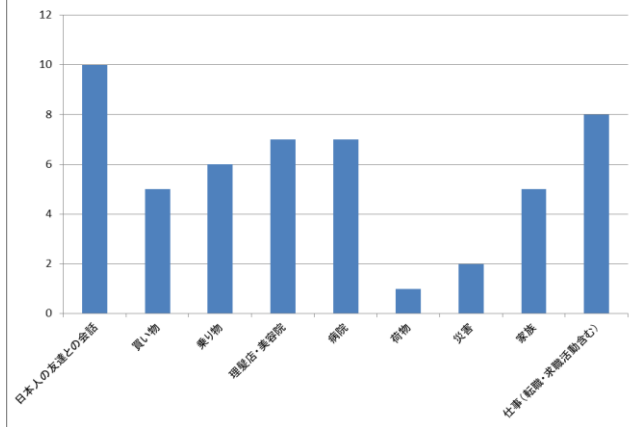
【データ】

- ①年代 20～40代まで幅広い年代層がいた。
 - ②様々な国籍の方がいた
 - ③職業 会社員4名 主婦4名 無職2名
 - ④ニーズ 日本人の友人とコミュニケーションがとりたい 病院対応 理容・美容院等の希望が多かった。
- また、今回のカリキュラムには直接的に関係ないが、A1レベル同様仕事や就転職活動に必要な日本語も学びたいという事であった。

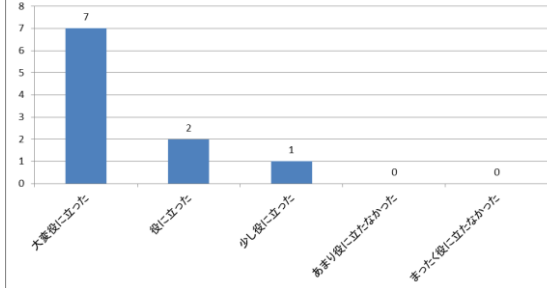
職業別



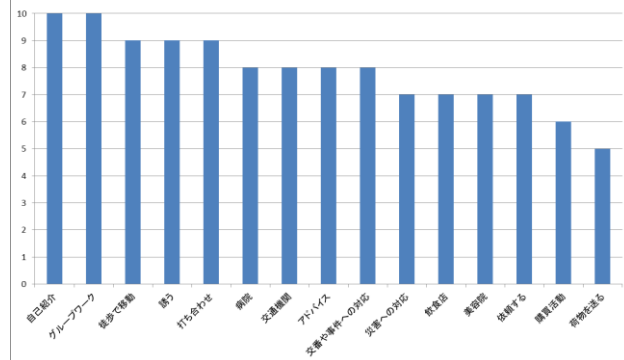
日本語を学ぶニーズ



受講後アンケート総評



満足度が高かった科目ランキング



受講後アンケートを実施する。

非常に満足度の高い講座であったと言える。全員出席率100%であり、内容的も充実していたのだと考えられる。すべての講座で高い満足度があった。これは、基礎が少しあるレベルのクラスであったため、導入から練習までスムーズに進んだためだと思われる。また実際に日本に来日して6ヶ月は経過している方が多かったため、実用的な場面で困ったことをヒヤリングし、授業の中に少し取り込んだことも満足度を高める結果となったといえる。

(11) 改善点について

A2レベル(実際にはA1レベルの後半くらい)と言う方が多かったのですが、レベル差があるため、授業の中での指導に戸惑うこともあった。その場合指導補助者にも指導者並みの指導力が求められる。今回は、指導者2名で、互いに補助者をかねながらの教師配置をしたため、充実した内容になったが、通常は補助者に指導者並みの指導力は求められないので、課題とも言える。授業のカリキュラム内容の中で、港区在住者の行動パターンを考えて、例文作成等を行うようにしたが、実施に生活している外国人は、港区以外にも出て行くことは多くあるため、港区と言うくりにするのはやや無理があったかもしれない。都心というくりにするなど地域の考え方を再考する必要があるともいえる。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

- (1) 講座名称 Can-do方式にあわせて日本語教育を実践できる日本語教師の研修
- (2) 目的・目標 外国人のニーズと、地域社会における日本人との共生に結び付く日本語力を具体的に想定し、授業計画に盛り込むことができるようになる。また、その効果的な授業活動を展開し、実践的な対話型の指導ができるようになる。
- (3) 対象者
- (4) 開催時間数(回数) 30時間 (全 10回)
- (5) 使用した教材・リソース
- (6) 受講者の総数 48 人
出身・国籍別内訳

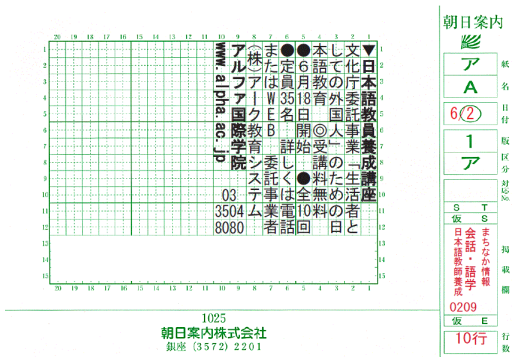
中国	0人	インドネシア	0人
韓国	0人	タイ	0人
ブラジル	0人	ペルー	0人
ベトナム	0人	フィリピン	0人
ネパール	0人	日本	48人

(7) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名
1	平成26年 6月18日 (水) 13:30～ 16:30	3時間	虎ノ門フォーラム B&C会議室	42	日本人 42人	Can-do型授業活動という概念	1回目という事で、参加者の日本語に関する知識を少し聞いた。 Can-do型授業とは、CEFRの説明をして、実例を示しつつ参加者の理解を求めた。	北村 弘明
2	平成26年 7月9日 (水) 13:30～ 16:30	3時間	虎ノ門フォーラム B&C会議室	36	日本人 36人	Can-do型授業における教材と実践法(1) ～全体の授業の流れと教材作成の留意点～	写真、絵カード、文字カード、レアリア、等を使って 生活者に密着した場面作りの重要性を解き、 参加者たちに、教案を考えてもらった。	渡邊 伸子
3	平成26年 9月10日 (水) 13:30～ 16:30	3時間	虎ノ門フォーラム B&C会議室	39	日本人 39人	Can-do型授業における教材と実践法(2) ～会話中心の具体的な指導法演習～	最初に行動目的を提示し、場面を決め、 会話に必要な文型をえらぶように指示したが、 参加者それぞれが違った文型例文を提示し文型選びの難しさが 参加者に分かってもらった。。	渡邊 伸子
4	平成26年 9月17日 (水) 13:30～ 16:30	3時間	虎ノ門フォーラム B&C会議室	32	日本人 32人	Can-do型授業における教材と実践法(3) ～ふりかえりシートの作成と活用法～	Can-do型授業の流れを実例をだし、説明し、 振り返りシートの意義と作り方、使用方法を具体的に教えた。	渡邊 伸子
5	平成26年 9月24日 (水) 13:30～ 16:30	3時間	虎ノ門フォーラム B&C会議室	34	日本人 34人	Can-do型授業を成功させるための会話例文作成演習	初めに『みんなの日本語初級』に出てくる例文を Can-do型例文に参加者に手直しをさせました。 次に行動目的、場面を示し、会話例文を参加者に作ってもらった。	森智香子
6	平成26年 10月1日 (水) 13:30～ 16:30	3時間	虎ノ門フォーラム B&C会議室	26	日本人 26人	Can-do型授業における日本語会話の目的と考え方	前回の復習でCan-do型授業での留意点。会話例の原則。 授業の実践例。対話を基盤とした授業の進め方それ自体が実践的コミュニケーションの訓練になっていることを指導。	北村 弘明
7	平成26年 10月8日 (水) 13:30～ 16:30	3時間	虎ノ門フォーラム B&C会議室	27	日本人 22人	Can-do型授業と構文型授業の違いについて	文型優先の授業の導入例『電気がついてある』『電気がついている』の違いを会話で示した。文型優先で自然な会話を作るのは 参加者にもトライしてもらって難しいと理解。	渡邊 伸子
8	平成26年 10月15日 (水) 13:30～ 16:30	3時間	虎ノ門フォーラム B&C会議室	33	日本人 28人	日本語授業で必要とされるコミュニケーション能力	コミュニケーション理論の解説 日本語教師に求められるコミュニケーションとは何かを具体的な例を出しながら伝える講座	北村 弘明

9	平成26年 10月22日 (水) 13:30～ 16:30	3時間	虎ノ門フォーラ ム B&C会議室	28	日本人 23人	CEFRにおける日本語能力の差と指導法の違い～A1レベルとA2レベルの違い～	CEFRの考え方と目的をまず説明し、共通参照レベルの自己評価表を使ってA1とA2レベルの差を考えた。 JFスタンダードの木の説明とコミュニケーション言語能力とコミュニケーション言語活動の必要性。	森智香子
10	平成26年 10月29日 (水) 13:30～ 16:30	3時間	虎ノ門フォーラ ム B&C会議室	33	日本人 27人	(総括)これからのCan-do型授業のあり方と可能性	今回の総括と今後の日本語教育に求められるCan-do型授業の方向性。その上で参加者に求められる日本語教育の在り方	北村 弘明

(8) 受講者の募集方法



朝日案内

紙名 A

日付 6(2)

版 1

取次 ア

取次 1025

取次 朝日案内株式会社

取次 銀座 (3572) 2201

2014年6月2日 朝日新聞 まちなか情報に行数広告
内容は左記ご参照ください。

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

2014年10月8日

研修項目 第7回 Can-do型授業と構文型授業の違いについて

担当講師 森 智香子(アルファ国際学院校長)

【授業項目／内容】

- ① 指導手順発想の違いを『～てみる』を使って説明、文型を最初に提示し、それを使った会話文を作るものと、行動目的として、自分が納得できる洋服をかうために試着ができるかを場面を作って『～てみる』を教えるなどいくつかの例をだし説明。
- ② 地域日本語教室の現状の運用能力が十分育成されていない問題点をどう打破するか、学習者の必要としている場面をアンケートの結果とともに考える。参加者に何が必要か考えた。
- ③ Can-do型授業の具体例とその背景を順を追って説明し、「～VながらVます」をおしえながら文型型授業の不自然な会話文を提示した。

【受講者の反応】

文型型授業に慣れている参加者が多かったので具体的にたくさん例を挙げて説明されてCan-do型授業にやっと納得できたようです。



2014年6月18日

研修項目 第1回『Can-do型授業活動という概念』

担当講師 北村弘明(聖徳大学教授)

【授業項目／内容】

- ① 地域日本語教育の目的について具体例を挙げて説明。
- ② 地域日本語教育の問題点：学習者の生活実態から離れた文型重視の授業をすることによって、会話力が身につかないことを例文を使って説明。
- ③ 一連の語学教育改革の背景にある理念である CEFR の概念と具体的に尺度を表を使って、どう Can-do 型に結びつくかを説明。
- ④ Can-do-statements の意義と意味を例文を挙げて説明、参加者にも例文を作らせる。
- ⑤ 実際の Can-do 型授業の教案を使って授業を講師が参加者を生徒にして再現。

【受講者の反応】

CEFR という耳慣れない言葉に戸惑いが見られたが、講師の具体例や授業の再現などを見て、少しずつ理解しているようであった。講師のユーモアあふれた語り口に救われ 3 時間が短かったようです。



(10) 目標の達成状況・成果

全10回のCan-do方式にあわせて日本語教育を実践できる日本語教師の研修を実施。

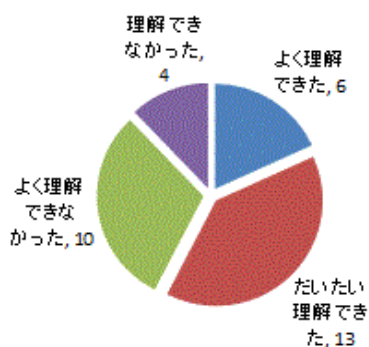
従来の日本語教育の概念である「文法説明を中心にした日本語教育」ではなく、「Can-do型で生活行動に結びつく日本語教育」の教員養成を行う。

【受講者データ】

48名中 日本語教師経験者(留学生向け日本語学校) 13名 ボランティア日本語教師経験者 22名 現在日本語教師養成講座受講者 9名日本語教育にまったく関わったことがない人 4名

実際に指導経験がある35名中33名は従来型の文法説明を中心にした日本語教育経験者であった。その33名の受講後アンケート(郵便)結果。

Can-do型と文法説明の違いを理解できたか？



文法説明を中心の指導法とCan-do型の違いについて、57.5%の受講生がその違いを理解できている。ただ、理解できなかったという方からは、「文法を教えずに実践的な日本語だけを教えるのはイメージがわからない」と言った意見が多くみられた。これは、文法説明型を身につけた教師にとって、実践的に教えることへの授業イメージがうまく伝わらなかったためであり、今後は、演技演習等を増やし、授業をイメージできるとよりよい研修になってくるであろうと考えられる。但し、48名中42名が生活場面で必要な日本語力を身に付ける「Can-do型」の指導法は今後の日本語教育に必要と考えている(アンケート結果)ことから、本事業の一定の成果が得られたと考えられる。

(11) 改善点について

学習者のレベル差に合わせて、例文をその場で作るという事がなかなかできなかった。その為出来る学習者が退屈しているときがあった。教師には、経験とフレキシビリティが必要だと痛感した。毎回完結型の授業なので、定着の度合いを見ることが出来なかった。学習者の出入りがあることは仕方がないが、毎回前回までの復習を交えた、練習会話の時間を多めに取る必要があると思う。男性と女性の生活の場が違う時の工夫がまだ足りなかった。最後に行動目的を最初に提示しているのですが、まだ学習者にキチンと伝わっていない、場面と共にインパクトが必要でした。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

- (1) 教材名称 Can-do方式にあわせて日本語教育を実践できる日本語教師の研修
- (2) 対象 : A1及びA2レベル 外国人生活者
- (3) 目的・目標 地域の特性に密着した現実場面で実践的に行動できる会話を促す教材を考案、作成する。
- (4) 構成・総ページ数 60ページ+ 118点
- (5) 教材作成会議の開催について

【概要】					
回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題
1	平成26年 9月17日 17:30~ 21:00	3時間	虎ノ門フォーラム C会議室	北村弘明 油川美和 渡辺伸子 高田伸子 柴田祥子 山田麻由子 水野亜希子 梶浦玄器 板橋貴子	教材作成のガイドラインについて 著作権について 教材作成担当について
2	平成26年 11月28日 17:30~ 21:00	3時間	虎ノ門フォーラム C会議室	北村弘明 油川美和 渡辺伸子 高田伸子 柴田祥子 山田麻由子 水野亜希子 梶浦玄器 板橋貴子	作成した教材の確認 絵パネルの作成について 今後のスケジュール
3	平成27年 3月16日 17:30~ 21:00	3時間	虎ノ門フォーラム C会議室	北村弘明 油川美和 渡辺伸子 高田伸子 柴田祥子 山田麻由子 水野亜希子 梶浦玄器 板橋貴子	完成した教材の確認 教材作成に関する総括

- (6) 使い方 別添使い方を参照
- (7) 具体的な活用例 別添使い方を参照
- (8) 成果物の添付

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

- ①港区を中心に都心に住む外国人のニーズに適応した、生活行動に資する日本語教育に取り組む事業
- ②文法説明など、理念的形式的な指導による授業ではなく、生活行動にすぐ結びつく会話能力を目指す授業を開発する

(2) 目標の達成状況・事業の成果

今回の事業は、港区という都心に生活することを特色とする外国人への実践的日本語会話を施すことを目的に、種々の取り組みを実施した。

生活に根差した現実で使える会話練習ということに関しては、外国人の行動パターンや港区という住環境で起こり得る場面設定、会話内容をできるだけ盛り込むように努めた。ただ、そのカリキュラム作成過程過程で、クラスの外国人の国籍はもちろん属性や職業なども統一性はなく、個々人の状況によりニーズもさまざまであったため、一概に「港区」という括りで統一し得るパターンをなかなか見出し難かったことは否めない。

それでも、港区国際交流協会の積極的な協力も得て、地域での外国人施策の取り組み、現時点で把握している港区の外国人生活実態の報告などを参考に、いくつかの「場面シラバス」と、そこで行われる「行動」とを抽出し、それを基本的な練習パターンとして、授業を進めた。

単に理念的な文型の意味を記憶していくという練習ではなく、実際の場面で外国人が「やりたい」と欲する行動をスムーズに実現するCan-do型の練習だが、従来の文型説明中心の授業のみを担当していた指導者にとっては、外国人のニーズに沿った指導法というのが、意外と難しい作業であったようだ。教材作成では、その行動場面を港区を代表する場面としたり、外資系の仕事に従事することが多いが故の行動パターンなどを盛り込んだりした。

人材養成もCan-do型の練習方法をどのように実施するか、また、地域の生活情報の要素をどのように取り入れて会話の実践性に結び付け行くかなどについて研修した。

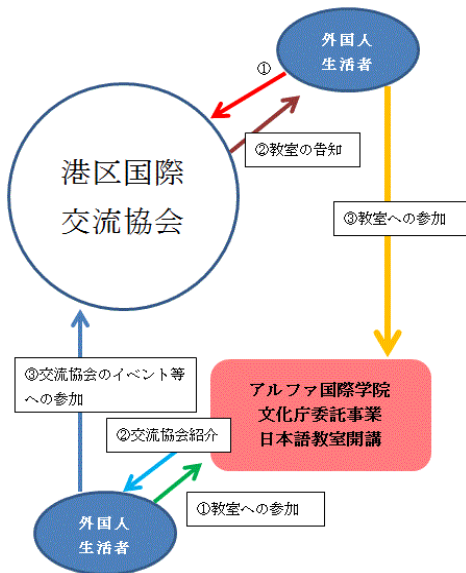
総じて、三つの取り組みを実施して

- ①外国人のニーズに寄り添った会話練習が重要であるという認識が深まった。
 - ②地域の特殊性や外国人の行動パターンを具体的に探る大切さを改めて認識できた。
 - ③外国人個々人の種々のニーズ(何を目的とし、何を望んでいるか)が、常に一定のものではなく、かなり変化するものであることがわかり、時々に応じてそのニーズを正確につかむことが実践的会話練習ではきわめて重要であることが浮かび上がった。
- などを把握できたことが、大きな成果であった。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

標準的なカリキュラム案の中からより「港区生活者」に必要と思われるカリキュラム案を実施し、一定の成果を上げることができたと考えられる。特筆する内容としては、防災・交通の利用の部分で地域に根差したカリキュラム内容となったように考えられる。その一方で、すべてのカリキュラムに地域性を見出すことができるわけではない上に、特に港区は外国人在住者が多く、すでに地域の努力により外国人に対応した一歩進んだ公共サービスも実現しており、他の地域に比べると標準的なカリキュラム案を港区の独自性を見出すのは困難であった。また、港区に特化するのではなく、近隣の都心部と内容が大きく変わらないようにも感じたため、都心部の生活者という内容にすることも必要であると実際に授業を行った教師からの指摘もあった。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等



本事業では特に港区国際交流協会と連携をし、相互の事業を外国人生活者に伝えていく連携を図る。

これまで、港区国際交流協会を利用していなかった外国人が、その存在を知り、有益なイベントに参加、利用するようになった。

本事業に参加した外国人のアンケートの中には、「港区で生活する上で、直接言葉が問題になることは少ないが、より快適でより良いサービスを受けるには、情報を知ることが必要だ」という意見があった。港区に限ったことではないが、外国で生活する上では、如何に有益な情報を集めるかが重要なポイントとなると言える。そういった意味では、地域の国際協会と民間であっても、当学院のように地域密着型の日本語学校(留学生向けの日本語学校ではないという意味)が連携をすることで、外国人生活者により地域に根差した生活を提供できるということが分かり、これは本事業を行う上で最も大きな成果であったと言える。

(5) 改善点、今後の課題について

本事業全体的に見て、地域性を見出すことが難しかった。それは、外国人の属性やニーズがさまざまであり、またこと「生活」というとらえ方を「住むために」と考えた場合、他の地域に比べ港区自体が公共設備・サービスを中心に、既に外国人が生活しやすい環境が整っているためと考えられる。また教師養成に関しても、元来教師に求められる資質や技能は地域に属するものではないのではないため、地域性を出すことができなかった。

また、Can-do型の場合、教師の能力が求められる指導法でもあり、教材を作成したものでもどの程度作成者以外が使いこなせるかは、かなりの経験が求められるように思われる。教材を共有することも大切ではあるが、どのように教材を作っていくのか、使っていくのか、そちらの指導にも力を注ぐ必要がある。

(6) その他参考資料